

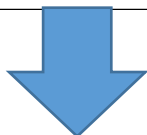
令和5年度 第7回板倉区地域協議会 次第

日時：令和5年10月30日(月)
午後6時～

場所：板倉コミュニティプラザ
201・202会議室

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 所長あいさつ
- 4 自主的審議事項
 - ・廃校した小学校の維持管理と利活用について
- 5 その他
 - ・視察研修の振り返り
- 6 閉 会

第6回地域協議会における廃校の利活用に関する意見のまとめ

感想	具体的提言			課題・問題点
	建 物	土 地	備 品	
維持管理に地域の協力が必要	画家、芸能関係者への貸し出し	旧山部小:グラウンドを宅地に	備品の活用(学校での利用から枠を広げて。町内会等にも希望を募る)	避難所としての利用が優先されるのでは
旧宮嶋小を野球、バレーボールができる場所とする。	旧寺野小:短期滞在施設としての貸し出し	旧山部小:グランドゴルフ場に	旧宮嶋小:緞帳、カーテンの再利用	法規制、補助金問題
閉校した校舎を見ると悲しい	旧寺野小:引き続き介護保険施設として。あるいは冬期一時宿泊施設に		旧宮嶋小:テレビを避難所に再利用	利用条件(法規制等)を明確にしての募集が必要
	除雪ステーションに 旧寺野小:やすらぎ荘の別館として 旧宮嶋小:公文書館に		学校時代に収集したり譲り受けたりした備品が放置されていないか	

●「民間」が「営利事業」で利用する場合、貸付料は非常に高額に。(固定資産評価額を元に算定)
●行政としては補助金返還が生じるのは困る。しかし管理にも費

建物、土地、備品 すべて活用を まずは公共利用 なければ民間で



令和5年度板倉区地域協議会 視察研修報告

1 日 時 令和5年10月23日（月）9：30～16：30

2 参加者 地域協議会委員 11人、板倉区総合事務所職員 5人

3 目 的 地域協議会委員が地域の課題や地域の活性化などについて、より充実した話し合いを行うため、先進地視察や研修会を行い、必要な知識や情報を得たり委員の共通認識を深める。

4 行 程 9：30 板倉コミュニティプラザ集合・マイクロバス乗車・出発
11：00 ワークセンターにしうみ到着
・廃校利用の経緯や開設までの経過について講話
・施設見学
（説明と案内…吉井センター長）
12：00 マイクロバス乗車移動
12：15 月徳飯店到着
・昼食、休憩、懇談
13：15 徒歩移動
13：30 糸魚川駅北広場キターレ到着
・地域防災について講話
（説明…糸魚川市消防署上野副署長、糸魚川市消防防災課木嶋副参事）
・徒歩にて街並みや消火栓を見学
（案内…糸魚川市消防署上野副署長）
15：30 徒歩移動
マイクロバス乗車・出発
16：30 板倉コミュニティプラザ着・解散

5 感 想

（1）廃校の活用について

- ・閉校になる前から地域の中で将来を見据えて、閉校後の活用方法を考えていたことに驚いた。そこに住んでいる人たちが、主体的に「どうしたいのか」「どうするのか」を考え、行動することが重要と感じた。
- ・5つの業務に特化し取組んでいることは素晴らしいと思うし、農業や利用者の昼食弁当作成等考えるに値すると思うが、当地での廃校利用を考えると、簡単に同様の取組みが出来るかとなると疑問である。学校新築時からそれなりの考えを理解し取組んだ結果が相当反映されている感がある。
- ・「地元のニーズ」や県や行政の後押しがあったから成功に至ったと考える。板倉区においては、光ヶ原に注力していくのであるから、宮島か筒方のどちらかと思う。冬季間の除雪が必要。アイデア不足で具体的な活用内容がなかなか描けない。廃校の耐震性・アスベストの確認が必要ではないか。

- ・校舎の改造、維持に多額の費用が掛かるためや、廃校の立地条件があまりよくないため、企業の誘致は難しいと感じた。
- ・廃校利用にしようは福祉施設として生まれ変わり成功して、良い例だ。板倉としては、まず寺野の施設を何とかして、そのあと他の施設を生まれ替えて利用しなくては何もできない。私としては東頸城かどこかオリンピック選手のキャンプ誘致した例があったと思うが、キャンプ合宿当たりに利用できればと思う。何よりもアイデアが大事ですが、利用する人（業者・法人）を呼び寄せるセールスマンが優秀かどうかにかかっている。
- ・廃校の成功例として学ぶべき点があり、視察場所に適していた。
- ・行政、地域と連携、相互理解がビジネスとして成り立っていると感じた。
- ・地域住民の危機意識と商工会を始めとする各機関の連携の賜物と考える。これは学ばなければいけないと思う。又、継続的な利活用を考えた時には収益の発生と人間性の強化を計る。これも学ぶべき事と感じたもので有る。
- ・社会福祉法人会奴奈川福祉施設長様、大変解りやすく説明頂き感謝申し上げます。多角経営をされていて、素晴らしいと感じた。やはりきちんとした法人会がついてらっしゃるから、できる事なのかなと感じた。これから先、本当に使えなくなった時の解体費用が気になる。皆様にとって、負の遺産にならないことを、お祈りいたします。
- ・廃校時、市及び県が動き、未来像が打ち出されていた。廃校時に於ける改修の資金面が大部分予定されていた。市がイニシアチブを取って進められ、その結果、大きな問題もなく進められた。廃校の時期が早かったため、上記の条件が整って進行された。事業も5事業部門設定されていて、幅広く事業を展開していると感じた。どの部門も活発に事業を推し進めている。※H17/3（2005）閉校して18年経過している状況で視察した。恵まれた状況の中での廃校利用を実施と感じられた。板倉区の廃校利用とは状況が違う。板倉区廃校利用の糸を見つけるのは並大抵ではない。
- ・幸運が重なった事があるかもしれないが、開設に当たっての検討内容に敬服した。設備投資の償還も終了し、黒字体質が続いているとの事、相当な経営手腕を持つ方がおられるからと推測する。



(2) 地域防災について（高齢化社会における地域の防災体制の充実と住民防災力の向上にむけた取組について）

- ・各地域、町内会にある防災組織が、各種災害に対して消防署、行政が関わり、活性化することが必要なのではと感じた。
- ・大火を経験し、国、県他と十分な検討の結果、道路巾の拡幅や地下を利用した水の確保等、参考にはなったが板倉の現状で同様の防災の取組みは、まず不可能である。
「自分の命は自分で守る。自分の地域は自分達で守る。」という考えを地域全体で共有し、行動に移せるよう日頃から出来る取組みを一つずつ課題に挙げ、具体的に実施するよう取組んで行く事が大切。
- ・気づく、知らせる、消火、協力と火災対応への考え方が整理されていた。消防団員減少と高齢化が進む中、40mm ホースは有効と思う。先ず知ってもらうため、2個購入し町内会の防災訓練等で披露してはどうか。消火栓は住民が使うことが前提でホース等を配備されているものと思うが…。
- ・40mm ホースは高齢化社会に適している資材と思う。導入の検討の必要があると感じた。自主防災組織が保有している資機材も高齢化社会に適した資材に変更しなければならないのではないかと考える。
- ・北アルプスより吹く蓮華風フェーン現象により大きな被害が出てしまい、その後素晴らしい復興施設を見て、人々の団結力を感じた。私としては、だれでも利用できる消火栓、40ミリのホースは板倉でも利用できると思うので初期消火に良いと思った。
- ・初期消火の面でホースの65mmから40mmや消火栓使用についてメリットが大きく、上越市も参考にしたい。
- ・防災意識の高揚は、自主防災組織と防災士の育成が地域の防災力向上につながっている。
- ・地震、雷、火事、親父と言われて久しいが災いは忘れた頃にやってくる。糸魚川の教訓を生かさなければいけないとつくづく考えさせられたものである。防災力向上についてはお金が掛かる何とかせねば。
- ・高齢化社会における地域の防災体制。火災報知器の連動式について1個を外に付けるのは目から鱗が落ちそうだった。10年前は20年保証の火災保険が、今は5年が最長。それだけ、災害が多い。掛け金も年々高くなってきている。小さなところから災害に対する意識を持たないと、高齢化社会に対応するには難しいのかもしれない。
- ・消防本部の取組について①大火の実績から②防災対策の地域に求めるもの解りやすい（火災・地震・風水）の自主防災対策が解りやすくまとめられている。③糸魚川市の近年に於ける災害事例（9件）④記録としてビデオが2本放映されて当時を生々しく再現された⑤大火で有ったが昼間の火災の為に犠牲者（死亡）0人で有った⑥火災報知器は市で独自では10/21点検の日と定めている⑦街並みの視察※⑧大火の実績から自主防災組織率88.3%（83組織）は低いように感じた⑨大火2年後の5年前に街並みを視察したが、時間経過とともにりっぱに復興されて感心させられた。消火栓の設備状況及びホース（65Aと40A）現物確認。電線の埋設はすばらしいと感じた
- ・消火栓の用法や防災出前講座の実施に関して、上越市との対応の違いにびっくりした。消火水利対策として、海水や暗渠水路を利用されているとの事、消火機材の故障も承知した上での対策に敬服した。



(3) 全体を通して

- 各地域、皆同じ悩みがあると感じた。
- 就労支援を目指した障害者雇用は素晴らしいと思った。大火の後の取組みと、大災害後の実際の現状を視察出来て大変良かった。
- 有意義な「視察研修」だった。
- とてもよかった、また勉強になった。また機会があったらお願いしたい。
- 廃校の利活用について、出発点でのタイミングと時代ニーズが重要との認識を新たに感じた。板倉として課題を整理して、利活用を積極的にPRしていくべきであると思う。
- 小さな市で有るからにしてか小回りのきく行政を行っているものと感じた。海と谷と山しか無い地形の中で住民意識が一つにまとまろうとしている。そんな事を考えさせられる視察研修で有った。
- 廃校の活用について 板倉区の現実を見据えた時参考になったが、板倉区の現況とは若干違うので100%参考とはならなかった。 地域防災と住民防災力向上について 大火の教訓から説明及び現地確認の結果は説得力の有る説明でも有り、又、確認でもあった。
- 非常に有益な視察研修であった。板倉区のみではなく、上越市としても参考にすべき事が多かった。